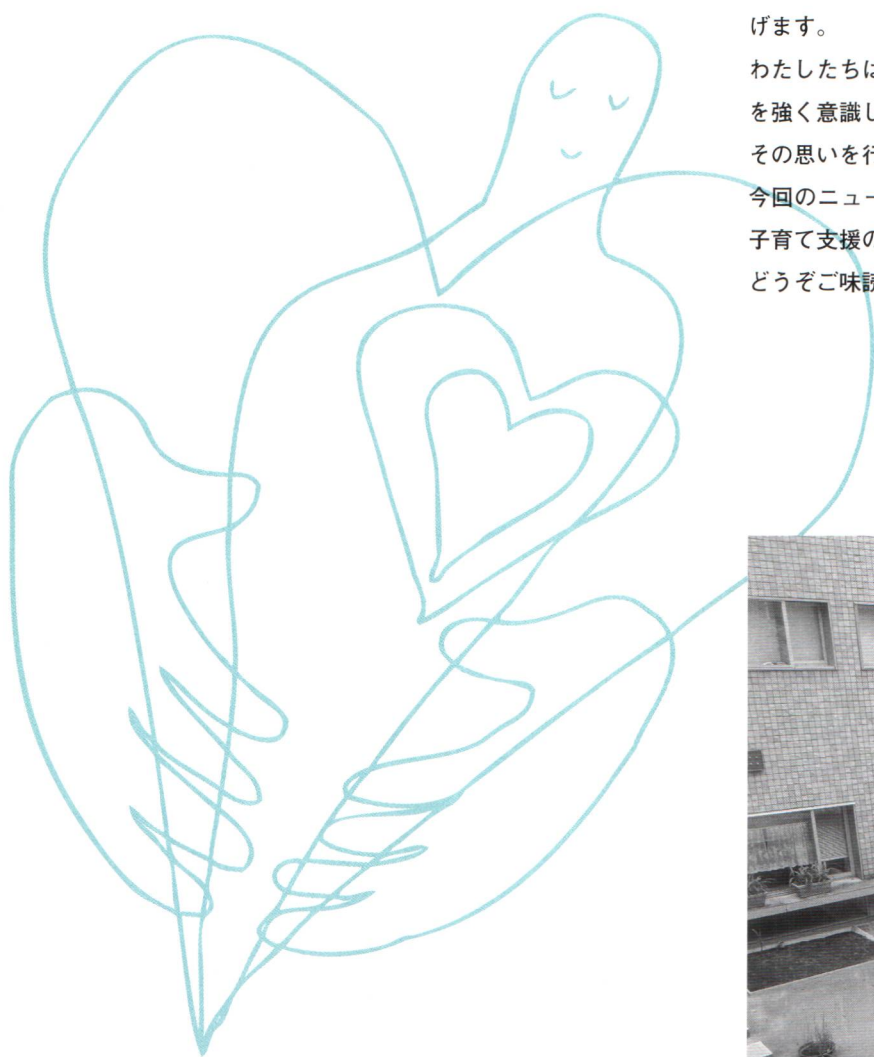


文部科学省私立大学
戦略的研究基盤形成
支援事業採択



このたび、東北・関東地方を襲った未曾有の大地震と津波で被災された方々に、衷心よりお見舞い申し上げます。

一刻も早く被災者の皆さまが安穏な生活を送られますようお祈り申し上げます。

わたしたちは、これまでの活動をふまえて、人間科学研究所としての使命を強く意識しています。

その思いを行動に移すべく、試行錯誤をはじめています。

今回のニュースレターは、研究所で行われました公開研究会のもようと、子育て支援の活動報告を掲載しております。

どうぞご味読ください。





活動報告

プロジェクト1「加害－被害関係の多角的研究」では、昨年度も前年にひきつづき「和解と赦し」をテーマとした研究会を開催しました。

3月5日は、2000年12月に東京で開かれた「日本軍性奴隷制を裁く女性国際戦犯法廷」に関わってこられた東京外国語大学の金富子（キム・プジャ）先生をお招きし、お話をいただきました。「女性国際戦犯法廷」は、日本軍「慰安婦」制度がどのような意味で戦争犯罪であったのかを、当時の国際法に基づいて裁いた民衆法廷です。法廷では、被害女性とともに元日本軍兵士が証言しました。その際掲げられた理念は、「裁きによる被害者の尊厳回復」、「裁きなくして和解なし」というものでした。金先生のご報告は、法廷の様子を撮影したDVD上映をまじえながら、法廷から10年を過ぎた現在から「女性国際戦犯法廷」の意味を問い直す刺激的な内容でした。

討論では、「裁き」の位置が主要な論点となりました。「和解と赦し」についてその理論化を進めてきた本研究会にとって、金先生の提示された「裁き」という概念は、検討するに値する重要な問題提起でした。金先生は「裁き」を「加害事実に向き合って責任を認めること」と定義し、従来の「裁き」を前提としない「和解」のあり方に疑問を提示しました。それにたいしてフロアからは、「裁きは和解の前提として必要か」、「裁きによって国家の戦争責任が隠匿されてしまう可能性はないのか」、「誰が『裁く』のか（『裁き』の主体をどこにおくか）」などの意見が出され、積極的な論議が展開されました。

以上の議論を引き受けるかたちで、3月23日、港道隆先生（甲南大学）を講師として昨年度二度目の公開研究会を開催しました。報告では、①前近代と近代の戦争の意味と相違、②近代国民国家にとっての戦争（敗戦）のパターン化などについて概説ののち、ジョン・ダワーの『敗北を抱きしめて』を素材に、敗戦後の日本における「和解」が、第一に（戦勝国アメリカへの）「模倣」によって行われたことで、「忘却」と「諦念」が支配する「和解」へと緩やかに着地する結果となったと述べられました。こうした「和解」のパターンは、金先生のいう「裁き」（第三者の介入を必要とする）に対し、第三者の介入を必ずしも必要としない「和解」のあり方について示唆する点についても論及されました。その前提には、「和解」は政治的プロセスであり現象であるという認識があります。しかし、そこに「赦し」が介入する余地はなく、「和解と赦し」をめぐる問題を論点化する意味も、あるいはそこに存在するのではないかと述べられました。

討論で、「和解と赦し」に関わるさまざまな概念が提起されたことは収穫でした。すなわち、「和解」、「赦し」、「国家」、「個人」、「模倣」、「同一化」、「他者」など、「和解と赦し」の理論化にとって今後整理していかなければならない重要な概念です。

今年度は、「和解と赦し」を含む、プロジェクト1の研究成果をまとめた叢書の刊行を予定しています。昨年度の研究会の成果も叢書に組み込まれることでしょう。ご期待ください。

プロジェクト1
加害－被害関係の多角的研究－和解と赦し
第57回 公開研究会

「裁きと和解－戦時性暴力の被害・加害の証言から－」

日時：2011年3月5日（土） 13：30～16：30
場所：甲南大学 18号館3階講演室
講師：金 富子
（東京外国語大学／ジェンダー論・ジェンダー史、
朝鮮教育史、日韓社会文化論）
企画：港道 隆（甲南大学／哲学）

第61回 公開研究会

「模倣と和解」

日時：2011年3月23日（水） 16：30～18：30
場所：甲南大学 18号館3階講演室
講師：港道 隆（甲南大学／哲学）



金富子先生

プロジェクト2.
育てる関係の危機と子育て意識の多相性についての研究
第1回 支援者のためのスキルアップ講座

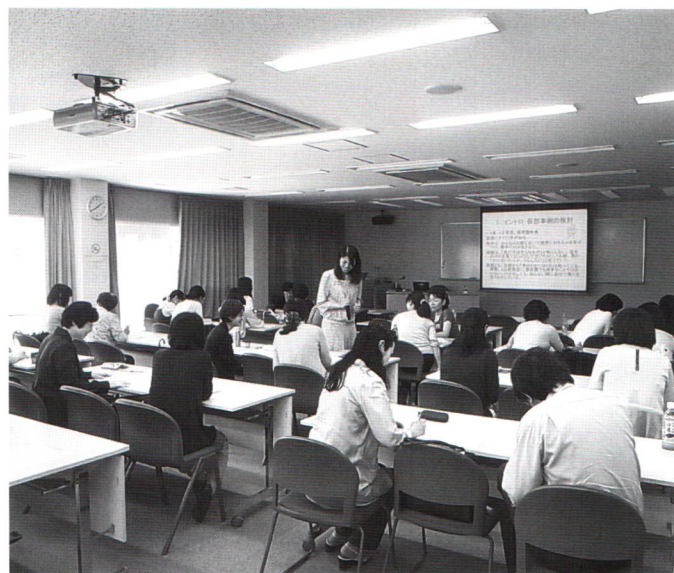
「アタッチメントに基づく 親子関係支援」

日 時：2011年5月21日(土) 13:30～15:00
場 所：甲南大学18号館3階講演室
講 師：北川 恵(甲南大学/臨床心理士)

第2回 お父さん・お母さんのための子育て応援講座

「子どもの安心基地になるために」

日 時：2011年6月2日(木) 10:30～12:00
場 所：甲南大学18号館3階講演室
講 師：北川 恵(甲南大学/臨床心理士)



第1回 「支援者のためのスキルアップ講座」の様子

プロジェクト2では、Circle of Security (COS) というアタッチメント理論に基づく親子関係支援プログラム(日本語通称:親子がホッとつながるグループ)を2009年度より実施しています。子育ては喜びも多いですが、悩むことも多々あります。子どもとの関係を振り返ってみたいと思う親を対象に、子どもが健全なアタッチメントを育むために必要な親の関わりについて学び、考えます。アタッチメントとは、子どもが不安や恐怖を感じた時に、親にくっつき、安心感を得ることをいいます。子どもは安心感を得ると、自発的に探索行動に向かいます。そして、また疲れたり不安になったりすると、親の近くに戻ってきます。このような循環を「安心感の輪」といいます。安心感の輪をなめらかに動ける状態が安定したアタッチメントです。プログラムの開始前に撮影した親子のビデオを、グループで見ながら、子どもの気持ちについて考えたり、親の関わり方の癖を振り返ったりします。プログラム後半で再び親子のビデオ撮影をし、プログラム参加による変化の手ごたえを実感することができます。

今年度は、8月のプログラム開始に先立ち、2つの講座を開催しました。まず、5月21日(土)に、子育て支援者を対象に「第1回支援者のためのスキルアップ講座」を行いました。当研究所兼任研究員でもある北川恵先生(甲南大学/臨床心理学)による「アタッチメントに基づく親子関係支援」と題して、アタッチメントとは何か、アタッチメントの問題はどう現れるのか、どう支援できるのかについてのご講演がありました。当日は、さまざまな領域で子育て支援に従事している方々が参加して下さいました。参加者からは、「愛着とアタッチメントの違いがよくわかった」、「仕事をしていく上でよいヒントになった」との感想がありました。

次に、6月2日(木)に、乳幼児・児童を子育て中の保護者を対象に「第2回子育て応援講座」を行いました。北川先生が「子どもの安心基地になるために」という題で、子どもが「安心感の輪」をなめらかに動けるために、必要な養育者の関わりについてお話し下さいました。質疑応答では、参加者が日頃子どもと関わるなかで気になっていることについての質問が次々にあがりました。先生は、「子どもに安心感を与えるためには、物理的に抱っこすることだけではなく、それ以上に、子どもの気持ちにそった言葉をかけることが大切」ということを強調されていました。参加者からは、「自分たち親子のこともビデオに撮って振り返ってみたい」と、親子がホッとつながるグループへの問い合わせと申込がありました。

今年度は、5組の親子を対象に(子どもは託児)、8月から12月まで、計18セッションのプログラムを実施する予定です。

これまでの活動

公開研究会

プロジェクト4. 心理療法の現在に関する検証—臨床と研究の即応的関係の構築—
第60回公開研究会「抑うつを見分ける」

開催日: 2011年3月16日(水) 18:00~20:00
場 所: 甲南大学18号館3階講演室
講 師: 横山 知行(新潟大学/精神医学、臨床心理学)
司 会: 高石 恭子(甲南大学/臨床心理学)

プロジェクト1. 加害-被害関係の多角的研究—和解と模倣—
第61回公開研究会「和解と模倣」

開催日: 2011年3月23日(水) 16:30~18:30
場 所: 甲南大学18号館3階講演室
講 師: 港道 隆(甲南大学/哲学)
司 会: 人見佐知子(甲南大学人間科学研究所/日本近代史)

プロジェクト3. 芸術学と芸術療法の共有基盤確立に向けた学際的研究
第62回公開研究会

第6回芸術療法と芸術学の対話

「芸術は自己表現か? —智恵子、光太郎がいた場所—」

開催日: 2011年6月25日(土) 14:00~16:30
場 所: 甲南大学2号館2-22 講義室
講 師: 木股 知史(甲南大学/日本近代文学)
司 会: 川田都樹子(甲南大学/芸術学)

研修会

第2回 KIHS アートセラピーワークショップ

「認知症ケアのためのアート2 ~和紙を使ったアートセラピーの実践~」

開催日: 2011年3月20日(日) 13:00~15:00
場 所: 甲南大学18号館3階講演室
講 師: 椋田 三佳(墨彩画家、アートグループ講師)
企 画: 内藤あかね(甲南大学心理臨床カウンセリングルーム/
臨床心理学)

公開講座

プロジェクト2. 育てる関係の危機と子育ての意識の多相性についての研究
第1回 子育て支援者スキルアップ講座

「アタッチメントに基づく親子関係支援」

開催日: 2011年5月21日(土) 13:30~15:00
場 所: 甲南大学18号館3階講演室
講 師: 北川 恵(甲南大学/臨床心理学)

プロジェクト2. 育てる関係の危機と子育ての意識の多相性についての研究
第2回 子育て応援講座

「子どもの安心基地になるために」

開催日: 2011年6月2日(木) 10:30~12:00
場 所: 甲南大学18号館3階講演室
講 師: 北川 恵(甲南大学/臨床心理学)

これからの活動

公開研究会

プロジェクト3. 芸術学と芸術療法の共有基盤確立に向けた学際的研究
第63回公開研究会

第7回芸術療法と芸術学の対話

開催日: 2011年9月8日(木) 13:00~14:30
場 所: 甲南大学18号館3階講演室
講 師: 三脇 康生(仁愛大学/精神医学・芸術批評)

公開シンポジウム

心の危機と臨床の知 第11回公開シンポジウム

「美と病のトポロジー—芸術療法の過去・現在・未来」

開催日: 2011年9月25日(日) 13:00~17:30
場 所: 甲南大学5号館511

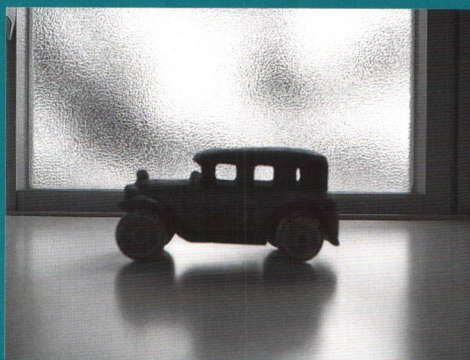
シンポジスト: 木股 知史(甲南大学/日本近代文学)
服部 正(兵庫県立美術館/アウトサイダー・アート)
三脇 康生(仁愛大学/精神医療・芸術批評)

企 画: 川田都樹子(甲南大学/芸術学)
西 欣也(甲南大学/美学)

主 催: 甲南大学人間科学研究所

参加方法: メールにて下記メールアドレスにお申し込みください。
件名を「公開シンポジウム参加申込」とし、
①参加者氏名、②ご住所、③年齢、④職業
をご記入の上、お送りください。
kihs_info@yahoo.co.jp [締切: 9月18日(日)]
※参加の可否は後日メールにてご連絡いたします。
※携帯からお申し込みの場合は、上記アドレスの受信
許可設定をお願いいたします。

発行年月日: 2011年7月30日



編集後記

「東日本大震災」に際し、亡くなられた方々、そしてご家族をはじめ関係の方々に心よりお悔やみ申し上げます。また、被災地で困難な生活を強いられておられる方々に、心よりお見舞い申し上げます。

人間科学研究所では、16年前の阪神・淡路大震災の経験をふまえ、被災地の方々の心に寄り添って、何が出来るかを見定めつつ持続的に考え行動に移していきたいと思っています。

ご指導、ご鞭撻のほどお願いいたします。